

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：34420

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12436

研究課題名（和文）言語適性は語彙学習ストラテジーにおいてどのような役割を果たすのか

研究課題名（英文）What Role Does Language Aptitude Play in Vocabulary Learning Strategies

研究代表者

麻生 迪子 (Aso, Michiko)

四天王寺大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：90625188

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、上級中国人日本語学習者を対象に言語適性の1つであるワーキングメモリと未知語の意味推測の関係について検討したものである。検討に際し、3つの調査を行った。1つは、上級中国人日本語にとっての意味推測困難語を抽出する目的で実施したアンケート調査である。2つ目は、ワーキングメモリ測定調査であり、3つめは読解文における意味推測活動である。3つの調査を経て、未知語の意味推測の成否については、ワーキングメモリの容量が影響しないことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語教育研究におけるこれまでの未知語意味推測研究は、学習者の日本語習熟度や推測手がかりとしての文脈量、学習者の母語、意味推測対象語の特徴といった観点から研究が進められることが多かった。どのような要因が学習者の意味推測の成功に寄与するのかを明らかにしてきた。本研究は、これまで取り扱われなかった「ワーキングメモリ」という観点を意味推測の成功に寄与する要因として検討したことである。ワーキングメモリは様々な言語学習に影響を与える要素であり、その影響について検討することは学習者の個人差を踏まえた指導法を検討する上での基礎研究となる。

研究成果の概要（英文）：This study explores the relationship between working memory, a facet of language aptitude, and the ability to infer the meanings of unknown words among advanced Chinese learners of Japanese. Three investigations were conducted: the first was a survey to identify words that are difficult for advanced Chinese learners of Japanese to infer; the second was a working memory measurement survey; and the third involved meaning inference activities within reading comprehension texts. The results indicated that the capacity of working memory does not influence the success of inferring the meanings of unknown words.

研究分野：日本語教育

キーワード：意味推測 中国人日本語学習者

1. 研究開始当初の背景

語彙は多種多様であり、日本語学習のニーズの異なる日本語学習者に対して、十分に時間をとって教育指導することは不可能である。この問題を解決するためには、未知の語彙に対して、その意味を理解する技能、つまり、「未知語意味理解ストラテジー」の指導が必要である。「未知語意味理解ストラテジー」とは、未知語の意味を意味推測や辞書などを使用して、その意味を把握するストラテジーを指す。しかし、「未知語意味理解ストラテジー」の使用は、必ずしも成功しないことが複数の研究で指摘されている。例えば、麻生・小森(2012)の研究では、4つの選択肢を与えたうえで意味推測を実行しても、当て推量をしてしまうことを報告している。すなわち、ストラテジーを用いても学習者に正しい意味把握をもたらさない可能性がある。本研究の問題意識は、この点である。

一方で、言語教育において、同じ指導をしても学習者の習得状況に差が生じる。このような差が生じる要因は「個人差」と呼ばれる。「個人差」は、「言語適性」「動機づけ」「学習ストラテジー」など多岐にわたる。「言語適性」とは、Carroll(1993)によると、「外国語能力の成功を予測する認知能力」と定義づけられている。Skehan(1998)は「言語適性」の要素として、「音韻処理能力」「言語分析能力」「記憶力」という3つの要素を挙げている。「音韻処理能力」とは、未知の音声材料を認識し、識別し、長期記憶に保存する能力である。「言語分析能力」とは、音声インプットから言語のルールを推論し、言語的に一般化する能力である(Skehan, 1998)。最後の「記憶力」とは、情報を記録し、同時に検索を行う要素である。向山(2013)は、日本で日本語を学ぶ中国人日本語学習者を対象に学習成果(文法、聴解、読解、会話)と言語適性の関係について縦断的調査を行った。その結果、適性要素は等しく学習成果に影響を与えるのではなく、学習段階によって影響の程度が異なることや、スキルによって必要な適性要素が異なることを示した。

本研究は、言語適性という概念がスキルごとに影響を与えているという向山(2013)の研究を踏まえ、読解活動を支える下位ストラテジーである「未知語意味理解ストラテジー」の成否についても言語適性が影響を与えているのではないかと検討した。

2. 研究の目的

本研究は、未知語の意味理解ストラテジーの成否に「言語適性」が関わっているかどうか明らかにすることである。未知語意味理解ストラテジーとして、意味推測活動に焦点をあて検討する。未知語意味理解ストラテジーを用いても、正しい意味を把握できないことがある。未知語意味推測の成功に付与する要因として、学習者の日本語習熟度や意味推測対象語の特徴、文脈といった手がかりの有無活用が指摘されてきた。手がかりの活用が意味推測の成功に寄与していることを考えると、手がかりに気が付き、手がかりを基にその意味を推測する能力が重要になる。また、向山(2013)によると、言語適性のうち、「記憶力」は日本語能力が向上してもスキルに影響を与えている要素であると報告されている。そこで、本研究は次の研究課題を設定し、言語適性と未知語意味理解ストラテジーがどのような関係にあるのかを探った。

(1) 意味推測の成否と記憶力は関係があるのだろうか。

操作的な定義として、「記憶力」は向山(2013)の定義に従う。向山(2013)は、ワーキングメモリを「記憶力」として定義づけている。本研究も同様にする。

3. 研究の方法

推測対象語の選定にあたり、中国人日本語学習者29名を対象に推測困難語アンケートを行った。日本語教育語彙表(<http://jisho.jpn.org/p1.html>)にて、次の条件を満たす和語動詞を検索した。

上級(前半・後半)レベルである
語義が4つある。
漢字1字と名詞で表記される。

抽出された語(23語)それぞれに意味推測及び推測難易度について4段階評価をおこなった。意味推測得点が低く、かつ、推測難易度が高いと評価された24語は、上級中国人日本語学習者にとって未知語である可能性が高いとして対象語とした。

4. 研究成果

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 麻生迪子	4. 巻 70
2. 論文標題 和語多義語動詞の意味推測に関する考察 - 中国人上級日本語学習者を対象に-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 四天王寺大学紀要	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 麻生迪子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 岩田一成編『語から始まる教材作り』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------